

# お知らせ

来月は建労いわて増刊号（A3版4面刷り）を発行いたします。今後も親しまれる紙面づくりを目指し、県連教宣部頑張っていくので、よろしくお願いします。

# 建労いわて 月刊号

発行所

岩手県建設労働組合連合会  
教宣部

盛岡市本宮一丁目7番27号  
電話 019-631-3280  
FAX 019-635-4015  
発行者 藤井泰男



## 新年の御挨拶

新新年明けましておめでとうございませう。昨年の第53回県連定期大会で、再度会長に就任いたしました。よろしくお願ひします。私達の運動が実り「公契約条例」が、2月の県議会で発表されることになっていきます。しっかりと条例実行に向けて、奮起していきたく思います。また「命の綱」である中建国保を守る為、国庫補助金の確保に向けて、例年通りハガキ要請、国会議員要請を行っていきたく思います。ご協力をお願いします。震災復興も4年目を迎えます。引き続き、被災地組合を支援していきます。組合員のみならず、皆さんの生活が良くなることを願ひ、新年のあいさつとします。

岩手県連 会長 齋藤 徳重



今期で退任される3名（写真左から菊池、工藤、菅原副会長）

平成26年12月7日から8日、花巻市「ホテル志戸平」において、岩手県建設労働組合連合会第53回定期大会が開催されました。1日目は、2014年度の経過と決算報告、2015年度の運動方針・予算案の提案、各専門部の分科会が行われました。今回の定期大会には役員と組合員合わせて154名が参加。来賓として平野達男参議院議員をはじめ、岩手県議会議員3名、中建国保本部の岩館常務理事、全労済岩手県支部、全労連共済岩手県支部にご出席いただき、全建総連本部からは、清水書記次長にご出席いただきました。

## 岩手県連第53回定期大会 3名の副会長が退任

平成26年12月7日から8日、花巻市「ホテル志戸平」において、岩手県建設労働組合連合会第53回定期大会が開催されました。

1日目は、2014年度の経過と決算報告、2015年度の運動方針・予算案の提案、各専門部の分科会が行われました。

はじめに齋藤県連会長から、「まだ組合に入っていない方々にも『勇氣』を与える様な組合活動をしていく為に、組織を拡大していかなければならないと思っています。そういう意味で、今日と明日それぞれの分科会で意見を出してもらい、新しい年度に向けてみなさんの力を發揮して頂ける様にお願ひしたい」とあいさつがありました。

清水書記次長からの本報告で「すべての組合員が自らの賃金単価が上がった、

功績を残された方、組織拡大に尽力された組合員に表彰を行い、2014年度の経過・決算報告。拍手で承認されると来年度の運動方針等を提案されました。

時間は都合上、質疑・応答は2日目に持ち越しとなり、各専門部の分科会が行われ1日目は終了しました。

2日目は、各専門部の分科会報告から始まり、その後前日に提案された方針案について、分科会報告を受けての質疑・応答（意見と要望も含む）、役員改選に伴う選挙が行われました。

その中の要望で、水沢の小野寺さんから「12月19日に行われる県との公契約懇談会で、県としても元請業者と共に発注者責任をしっかりと守ってもらう事を前提で、賃金の下限を設けることについて意見を出してほしい」という要望がありました。

この要望に対して齋藤会長から「懇談会では、県の建設業協会、経営者団体を含む7団体が参加。難しい問題になると思うが、みなさんから実際の現状をパソコンからパブリックコメントの中に書き込んで頂き、それを基に意見をしていきたい。県としてもみなさんから頂いた意見は状況判断の材料になるので、ぜひともお願ひしたい」と回答がありました。

質疑・応答の後、拍手を持って方針案が承認されました。方針案の承認が行われた後、選挙管理委員より新役員が発表が行われ、3名の副会長（菊池・工藤・菅原）が退任し、新たな副会長（高橋・大崎・高館）が就任したこと、その他立候補した役員は、全員無投票当選したこと、報告がありました。

その後、今期で退任される3名の副会長よりそれぞれあいさつがあり、続いて新役員を代表して齋藤県連会長から「岩手が早く復興出来る様な状況を作ってほしい」と決意表明がありました。

最後に工藤副会長が「團結カンパロー」を行い、こぶしを上挙げ、新役員と共に団結してまた1年頑張っていくことを誓い終了しました。

◎なお、2日目に行われた各専門部の分科会報告の詳細、退任・就任した副会長3名のあいさつ等につきましては、2月発行の「建労いわて増刊号」に掲載いたします。

【県連 鈴木(章) 記】

【県連会長 齋藤 徳重】

## きずな

12月に入って、冬将軍がすすわり、全国的に厳しい寒さが続く中、安倍政権は突然の衆議院解散を宣言した。なぜ「今」と多くの国民が思ったでしょう。

公示後、新聞・報道等で自民300議席確保と報道され、投票する前から結果が分かる様な選挙で、有権者の関心を失った。

その結果、選挙の投票率が戦後最低であった。今回行われた小選挙区制度は、少ない票で多くの議席を確保できる制度なので疑問がある。

岩手県連では「数は力」と言って、組織拡大をしている。今回の選挙で自公政権が全体の3分の2の議席を確保したことで、どんな法案も通る可能性を得たが、「戦争をしない国」だけは守ってもらいたい。生活が良くなることには大いに期待したい。

岩手県でも2月に公契約条例の骨子を提案するという事になってきている。選挙で当選した議員にも協力してもらい、私達の暮らしが良くなるように活動していきたい。

今回の選挙は「無風状態」であったが、政治には異常気象が起らない様な、世の中になってもらいたいのだ。

【県連会長 齋藤 徳重】